

クリーク水路網の排水機能の強化・回復で湛水被害を軽減

さが おぎ
【佐賀県佐賀市・小城市】

【工夫のポイント】

- 地形的条件、干拓地特有の地盤沈下による排水流下能力の低下、更に、地域開発による水田の貯水能力の低下や洪水流量の増加により、慢性的に湛水被害が発生。
- 排水機場や幹線排水路の排水機能の強化・回復に加え、クリーク水路等の整備により、湛水被害を軽減。

【取組地域の概要】

- 位置 さが おぎ
佐賀県佐賀市・小城市

佐賀県



さがちゅうぶ
佐賀中部地区

- 主要作物
・水稻、麦、大豆、いちご、アスパラガス等
- 主要施設
・排水機場 11か所、幹線排水路 31km
・クリーク水路 384km
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業（S24～S48）
・国営農地防災事業（H24～）
・クリーク防災機能保全対策事業（H3～）
・県営地盤沈下対策事業（H3～）

農地や農業用施設の湛水被害を軽減

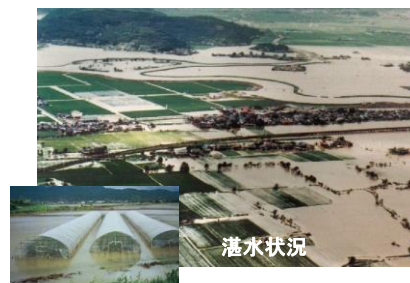
- 排水機場や幹線排水路の新設・改修、クリーク水路の堆積土の撤去・整備等により、排水・防災機能が増進。
- 排水能力の向上と排水施設全体の機能回復に伴い、余剰水を速やかに排水し、湛水被害を軽減。



基盤整備
(S57年～)

【整備前】

地盤沈下により地盤が海面より低く排水不良のため、豪雨のたびに農地や農業用施設等に被害が繰り返されてきた。



高付加価値農業の取組

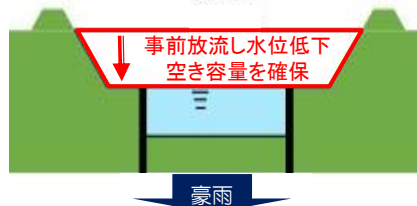
- 湛水の心配が減り、いちご・メロン等の施設園芸が急進、いちご「さがほのか」をブランドとして確立。



生産現場

クリークの貯留機能を活かした洪水調節

- 洪水警戒時に、事前放流を行ってクリークの水位を低下させ、一層の洪水調節機能を確保し、流域治水に貢献。



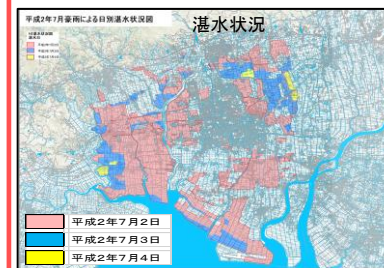
一時貯留による洪水調整機能を発揮

地域の取組

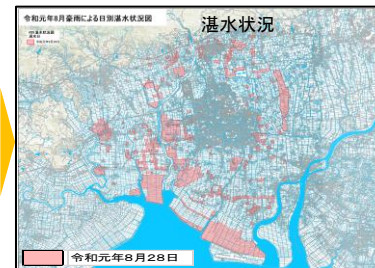
豪雨による湛水被害の軽減

- 排水機場や幹線排水路棟の排水施設整備とクリーク整備による流下能力の向上が相まって地域の排水能力が大きく向上。
- 令和元年8月豪雨（湛水期間の総雨量455mm）による湛水状況は、平成2年7月豪雨（湛水期間の総雨量296mm）以上の降雨であったにもかかわらず、湛水範囲が大幅に縮小。

【平成2年7月豪雨時】



【令和元年8月豪雨時】



〔 湛水面積： 9, 300ha (H2) ⇒ 3, 400ha (R1) 〕